

令和5年度 美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名：第74回全国植樹祭プレ植樹及び木育プロジェクト

2 実施団体：美作広域森林組合長協議会

3 担当課：美作県民局 地域づくり推進課

4 事業概要

第74回全国植樹祭開催に向け、前年度の令和5年度に、美作地域の関係森林組合が連携し、開催機運の盛り上げと緑化意識の醸成のため、美作県民局管内の小中・高・大学等（延120校。対象生徒数約2万3千人、教職員約2千人。延べ2万5千人。）を対象にイベントとして記念植樹と森林学習を展開した。

5 実施内容

本プロジェクトにおいての具体の実施内容は以下のとおりである。

(1) 記念植樹

- ① 天皇陛下お手植え予定（岡山県の木）のアカマツ
- ② 皇后陛下お手植え予定のクロガネモチ
- ③ 学校所在市町村の木・花

の3本を、それぞれの学校との調整の上で、校内植樹、特定のエリアでの植樹、鉢植え等とし、生徒及び校長等の参加の下、実施（P4写真参照）。

(2) 記念植樹標柱の制作

それぞれの学校において、生徒あるいは教職員等により、制作

(3) 横断幕の制作と掲示及び集合写真の撮影

縦約1m、横約4mの布を全校に配布し、それぞれの学校において、生徒等に工夫して制作してもらい、上記(1)の植樹木を中心に、標柱と共に集合写真（P2写真参照）を撮影。

なお、横断幕については、全国植樹祭開催日（令和6年5月26日）まで、地域に向けて掲示（P2写真参照）してもらい、地域住民に対してアピール。

(4) 森林学習（木育）

関係森林組合が協力して、「全国植樹祭」、「森林の役割」及び「林業」について取りまとめたA3両面のパンフレットを制作し、全生徒及び教職員に配布。

森林学習については、学校の放送室から、あるいは体育館等で生徒を対象に、制作したパンフレット等を参考に説明（P5写真参照）。

また、パンフレットについては、自宅に持ち帰り、家族での話題にしてもらうよう要請。

○ 鉢植え、横断幕、標柱セットでの集合写真（津山市立鶴山小学校）



○ 地域に向けての横断幕の掲示状況（津山市立西小学校）



○ 制作したパンフレット
(表面)

第74回 全国植樹祭 岡山 2024

プレ植樹&木育プロジェクト

天皇皇后両陛下のお手植えによる記念植樹祭が行われます。

豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるために、公益社団法人国土緑化推進機構と都道府県の共催により開催する国土緑化運動の中心行事です。

毎年(元)1950年に「第1回植樹祭」が正式名称として1952年府県で開催されて以来、各都道府県において毎年春に開催されています。これまでの大会では、天皇皇后両陛下の御臨幸を賜るとともに、県内外から多くの参加者を迎え、式典行事や記念植樹が行われています。

1. 全国植樹祭って何だろう？

みんなが森林への理解を深め緑豊かな国を築くことを目的としています。毎年どこかの所で開催されています。今年も、第74回全国植樹祭が57年ぶりに岡山県のジョブアリーナで開催されます。

豊かな自然を守り育てて、活かされる国土を未来の子どもの手に残していく活動です。

「植える・育てる・活かす」を繰り返すことで、自然環境の持続可能な社会を実現します。

「植える・育てる・活かす」を繰り返すことで、自然環境の持続可能な社会を実現します。

令和6年5月26日に開催の第74回全国植樹祭(岡山県(岡山市)は57年ぶり)は、天皇皇后両陛下の御臨幸を賜る行事として行われる天皇陛下の御臨幸の大きな行事の一つとしてこの行事は「植樹祭」に加え、「全国植樹祭」「全国若き者育つ大会」「国民緑化大会」「国民文化祭」が盛り込まれます。

2. 「木育」ってなんだろう？

木と森と人間の良いかわりを体験し、「木とふれあう、木と学ぶ、木と生きる」自然環境を守ることの大切さを伝えることを「木育」と言い、子どもたちが木の成長を学ぶだけでなく、大人と一緒に森に遊びながら学ぶことも「木育」です。

●木とふれあう
●木と学ぶ
●木と生きる

3. 住んでる場所の山はどのくらいあるの？

岡山県内の森林率は約7割で日本の森林率とほぼ同じです。植える森は、少くとも、新緑、紅葉、たくさんの自然の生態が生活しています。植林では、植える森は、少くとも、新緑、紅葉、たくさんの自然の生態が生活しています。

| | | |
|-----------------|--------|-------------------|
| ●世界の森林率: 21.2% | 国別 | 第1位: フィンランド 73.7% |
| | | 第2位: スウェーデン 68.7% |
| | | 第3位: 日本 68.4% |
| ●岡山県の森林率: 67.9% | 森林組合管内 | |
| | 高松 | 79.6% |
| | 美作東播磨 | 74.3% |
| | 作州かがみ | 68.4% |
| | 赤松 | 63.1% |
| | 久米郡 | 68.0% |
| | 津山市 | 69.9% |

美作広域森林組合長挨拶

森林組合は、山を育んでいる住居の皆さんが、暮らしに役立つ森林組合です。私たちは、森林の暮らしを通して、新しい文化や水をとおとし、山を育むだけでなく、皆さんの安全な暮らしのサポートもしています。また、大きく成長した木を伐採し出して、皆さんの暮らしに必要な家や、家具の材料を生産する仕事もしています。

●作州かがみ森林組合 0868-52-2926
●美作東播磨森林組合 0868-75-4100
●赤松森林組合 0868-36-3036
●久米郡森林組合 0868-66-0053
●津山市森林組合 0868-23-1283

森林・林業に関する情報や相談、お問い合わせ先、何でも森林組合にご相談下さい。

(裏面)

4. 林業って何？どこで仕事をするの？

林業とは、木を植えて育て、森を作り、育った木を伐って、市場に出すことです。山の頂上での仕事です。育った木は丸太だけでなく、薪や炭などに加工されて売ることがあります。木を伐った後には薪を敷いて、新しい木を育てる。木の成長を待ちながら、自然に育っています。また木は、木材を生かすだけでなく、自然に育つことで木を育てる。自然を守り育てて、活かされる国土を未来の子どもの手に残していく活動です。

5. どんな事をするの？

林業の仕事は大きく分けて、育木、伐木、下処理、販売の4つに分かれます。

- 育木**: 木を植えて育て、森を作り、育った木を伐って、市場に出すことです。
- 伐木**: 育った木を伐って、薪や炭などに加工されて売ることがあります。
- 下処理**: 木を伐った後には薪を敷いて、新しい木を育てる。木の成長を待ちながら、自然に育っています。
- 販売**: 木を伐った後には薪を敷いて、新しい木を育てる。木の成長を待ちながら、自然に育っています。

6. 「間伐」したらどうなる？

間伐とは、育木と同じようにクワンソウを植えています。そして、育木と同じようにクワンソウを植えています。そして、育木と同じようにクワンソウを植えています。そして、育木と同じようにクワンソウを植えています。

7. 森林にはどんな役割があるの？「保安林(ほあんりん)」って何？

森林は木を育てるほかに、水を蓄える、土壌を固める、自然環境を保護する役割があります。みんなの生活を豊かにするために「保安林(ほあんりん)」という仕組みがあります。保安林では一般にたくさんの木を伐採しない。木を伐った後には薪を敷いて、新しい木を育てる。木の成長を待ちながら、自然に育っています。また木は、木材を生かすだけでなく、自然に育つことで木を育てる。自然を守り育てて、活かされる国土を未来の子どもの手に残していく活動です。

8. たくさんの人が働いてるの？

林業で働いている人は、令和6年現在43,710(内女性2,730)人です。令和5年当時は44,321(内女性24,114)人で、30%まで減少しています。岡山県の森林を管理するために必要なたくさんの人が必要です。

林業で働いている人は全国約4万3千人で、岡山県では約1,300人です。女性の割合も増えてきています。

「林業女子」とも呼ばれます。

9. どんな機械をつかうの？

- チェーンソー**: 木のつたいチェーンを高速で回して、丸太や薪などを切ることが出来る機械。
- プロセッサ**: 育った木を丸太にする機械。木を丸太に加工し、薪や炭などに加工して売ることがあります。
- スイングヤーダ**: 木を丸太にする機械。木を丸太に加工し、薪や炭などに加工して売ることがあります。
- グラブ**: UFOキャッチャーのように筒状の機械で、木を丸太にする機械。
- フォワーダ**: 林業の機械で、木を丸太にする機械。

木を丸太にする機械は、チェーンソー、プロセッサ、スイングヤーダ、グラブ、フォワーダなどがあります。

〈参考：各組合が実施した植樹風景〉
(作州かがみの森林組合)



(真庭森林組合)



(久米郡森林組合)



(美作東備森林組合)



(奈義町森林組合)



(津山市森林組合)



〈参考：森林学習（木育授業）風景〉
（作州かがみの森林組合）



（真庭森林組合）



（久米郡森林組合）



（美作東備森林組合）



（奈義町森林組合）



（津山市森林組合（校長室からライブ））



6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

- ① 一定のテーマについて、地域の全学校（県の要請でベンチ等の制作に取り組んでいる数校を除く。）の全生徒及び教職員（延2万5千名）に対して林業教育（木育）ができた。
- ② 結果、全国植樹祭の意義及び森林・林業の大切さについて啓発ができた。
- ③ 横断幕を地域に向けて掲示することにより、地域住民に対しても全国植樹祭のPR効果は、より大きくなった。
- ④ パンフレットを家庭に持ち帰って家族で会話してもらうことによって、その数倍の波及効果が期待できる。

(2) 今後の課題

特に森林学習（木育）については、継続した取り組みが重要であることは当然のことであるが、学校教育の場では想像以上に沢山の課題（福祉、防災、OA、運動会、文化祭、修学旅行等々）の消化が求められており、そこに新たな課題として割り込むことの難しさがある。

学校によっては、これまでも継続して取り組まれている所もあり、正に校長先生を始め教員に対する啓発を通じて、学校教育上必要かつ有意義であることを認識してもらう必要。

体験学習の要望がある場合、体験場所までの足の確保（車両借り上げ等）の予算の確保は、大きな課題。

7 県民局と連携した効果及び課題

(1) 効果

- ① 全国植樹祭の機運を高めるに効果的な方法の模索に当たり一定の費用負担（補助金）が活用できたこと。
- ② 県の事業であることから、小中学校に関しては教育委員会等の支援が受けやすかったこと。
- ③ 対象とした全学校（120校）について、森林組合とのパイプができたこと。

(2) 課題

- ① 提案内容に即し、県当局からの積極的な後方支援が重要。
- ② 人件費について一定程度計上できる必要。
- ③ 特に、当団体のように「全国植樹祭」という特定のターゲットがある場合は、取り組みの成果を、天皇皇后両陛下や主催者の目・耳に届くよう、配慮する必要。